

1. スカウトソングの原点

B.P.(創始者 ベーデン・パウエル)は19世紀末繁栄を極めていた大英帝国の軍人でした。彼はイギリスの植民地であったインドや南アフリカに赴任しました。武器を取って勇敢に戦いたいと思っていたようですが、期待とは裏腹に軍隊にとって敵と戦うことよりも大切なことは「退屈」と戦うことにありました。そこでB.P.には子どもの頃から培った演出家と俳優のすばらしい才能を発揮し演劇やミュージカル、オペレッタ、スタントで同僚たちを和ませたのです。ここに、アクションソングの原点があります。

それでは、初めてのスカウトソングは何でしょうか？B.P.のスカウティング・フォア・ボーイズにその答えがありますが、答えの前に振り返っておかなければならないのは、南アフリカでのズールー人との戦争です。ズールー人は非常に勇敢な民族でイギリスはズールー人との戦争で歴史的な大敗をしていました。B.P.はそのズールー人との2度目の交戦の指揮官に任命されました。結果的に彼の観察力と偵察力の結果、ズールー人に勝利を収めることができたわけですが、そこでB.P.は3つの戦利品を得たといわれています。1つ目はズールーの族長であるディニズルから得たウッドビーズのネックレス(これは後のウッドバッジになる。)であり、2つ目ははじめてのスカウトソングともいえる「エーン・ゴンヤーマ」です。エーン・ゴンヤーマは威厳に満ちた歌でB.P.は大変気に入ったようです。そして3つ目は敵であったとしてもその文化と生活様式を身に付ける謙虚さでした。

2. 世界をつなぐ民族の歌

あらゆる文化や生活様式に寛容になったことは、運動にとって有利なことでした。多くの国々で認められたこの運動は世界中に広まり、各国の特に生活や文化との関係の強い歌が互いに紹介されました。これらの歌は『イエール』と呼ばれています。キャンプファイヤでスカウトたちはイエールを歌ったり叫んだりすることで、地球上にこのような民族がいることを知り、意味ではなく音感を楽しみました。多くの歌は未開の民族のものであったり、貧しい生活の中から生まれたものであったりして、現代の先進国にすむ我々が忘れてしまった様々な感覚を思い出させてくれるのです。また、同時にスカウティングが持つフロンティアスピリットを刺激するものでもあります

3. イエール(心の叫び)

ボーイスカウト歌集に載っているイエールは海外でスカウトソングとしてうたわれた歌がそのまま入ってきたもののほかに、日本人が海外から集めてきたものもあります。今となってはその出所も良くわからないものがほとんどでしょう。

歌集の中で意味のわかっている歌や、何の歌かわかっている歌を下にあげて見ました。

HoldriaKuck(ホリデテリア クック)

スウェーデンの子どもたちの遊んだときの歌。

Sarasponda(サラスポンダ)

オランダのつむぎ歌。

She'll Be Comin' Round the Mountain

アメリカの鉄道の歌(Sheは鉄道を指している。)

ホキトキウンバ

ノルウェーの漁師の歌。

台湾アミ族の牛追い歌

台湾アミ族の祝い歌

その名の通り

KUM BA YAH(カンバヤ)

アメリカの黒人奴隷がキリスト教に出会った喜びの歌。(Come by here がなまった。)

HAN SKAL LEVE(ハンスカレーベ)

デンマークの歌で、「彼に栄光あれ」という意味がある。